

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 24 日現在

機関番号：44434

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21530645

研究課題名（和文） 市民と行政の協働による親子の主体性育成を目的とした子育て支援活動に関する研究

研究課題名（英文） Study on the cultivate the intersubjectivity of parents and children that government and citizens to work together

研究代表者

寺田 恭子（TERADA KYOKO）

プール学院大学短期大学部・幼児教育保育学科・准教授

研究者番号：30369673

研究成果の概要（和文）：(1)一般的家庭群において、親は子育てにおける義務感、責任感を持ち、自らの家庭生活を軸足とした内在的主体性を起点している。(2)市民活動において、個人の活動のエネルギーとなっているものは、他者と「共にあろう」とする共生意識と社会連帯意識である。それは他者との相互関係の中から生まれるものである。(3)親と子の主体性育成と親と子の関係性の安定は密接不可分の関係であり、「親と子の関係性」の調整は、家庭内の自助努力だけで解決を図るには困難な場合が多く、そのために社会的サポートが必要である。

研究成果の概要（英文）：(1) In general home, parents have a sense of duty in raising children, a sense of responsibility. And, the parents, have the independence, which is based on family life. (2)The citizenship has social solidarity and coexistence consciousness, and has become a source of energy. It is born out of mutual relationship with others. (3)"Stability of the relationship between parent and child" and "cultivate the intersubjectivity of parents and children" is closely related. Adjustment of the "relationship between parent and child", is often difficult to attempt to resolve only self-help efforts in the home. Social support is needed for that.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 22 年度	900,000	270,000	1,170,000
平成 23 年度	700,000	210,000	910,000
平成 24 年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：「市民と行政の協働実践」「親と子の主体性育成」「親と子の関係性」「相互主体性」「親性の発達」「地域の役割」

## 1. 研究開始当初の背景

(1)先行研究である親子の主体性形成を活動目的にしてきた「貝塚子育てネットワークの会」の調査研究結果（2004～2006）として、親子あるいは市民の主体性育成を目的とした子育て支援の課題を以下の5点に整理し

た。

- ①当事者親子を実践の主役にする事
- ②当事者親子の共通の生活課題を実践の柱に置くこと
- ③当事者親子を主体とする市民活動に、行政が協働することによって、地域の幅広い非当

事者を巻き込むことを可能にし、地域全体の生活課題としてより大きな展開が期待できる

④「実践」と「学び」を繰り返すことにより、実践に理論と方向性が与えられ、理論を共有し、協調を生むことができる

⑤当事者に非当事者を含めた「学び」により、非当事者は当事者の生活課題に共感し「実践」を共有することができる

(2) 2006年に結成され、大阪市内を活動エリアとする子育てグループの支援団体である「たこやき」は、情報交換や学びの場として、現在7団体が参加しており、「地域の子育て力」「家庭の子育て力」「子どもの個育ち力」の育成を目的に、「いのちの授業」「食育」「乳幼児の外あそび」の3点を実践課題として設定している。

## 2. 研究の目的

(1) 「いのちの授業」「食育」「乳幼児の外あそび」のそれぞれの子育て支援プログラムを開発し、普及する。

(2) それぞれの子育て支援プログラムが、親子の主体性育成にどのような成果があるのか、調査を通して検証する。

(3) 「貝塚ネット」調査研究で得た親子あるいは市民の主体性育成を目的とした子育て支援の課題が他のエリアで活用できる普遍的なものであるか検証する。

(4) 本研究の市民と行政の協働実践は、非当事者の共感と協調をどのような過程で生んでいくのか、また地域福祉教育として成果があるのか、実証研究として明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 子育て支援プログラム開発は、「貝塚ネット」調査研究で得られた知見を活かし、実践→調査→学習会→実践を繰り返して、「いのちの授業」「食育」「乳幼児の外あそび」それぞれのプログラムを精選し、開発する。

(2) 開発した子育て支援プログラムは、講演会、研修会を通して、他の地域の子育て支援現場に普及させ、その成果を調査研究しながらさらにプログラムを精選していくという研究方法を採る。

(3) 調査は、調査票を用いたアンケート調査及び、インタビュー調査や見学観察調査を中心とした質的調査である。

## 4. 研究成果

(1) 食育について

親の主体的な食育を育てる食育プログラム開発を目的に、阿倍野区内において「1歳6か月健診児の子育て当事者調査」を実施した(2009年7月16日～2009年10月22日、N=223)。調査により、以下のような結果が得られた。

①親は、子育てにおける義務感、責任感から食生活に対しても内在的主体性をもって取り組んでいる。

②親の食事づくりのつらさ感は、「作っても子どもが食べない」に影響されており、地域のサポート課題として「近所の親子が集まって食べる場」(表1)を希望している。

表1. 「作っても食べない」を従属変数とする地域のサポート課題：二項ロジスティック回帰分析結果

二項ロジスティック回帰モデル	B	標準誤差	Wald	有意確率	Exp(B)
保育付きクッキング	0.66	0.399	2.744	0.098	1.935
簡単レシピの紹介	0.699	0.437	2.557	0.11	2.011
伝統食の紹介	0.254	0.643	0.156	0.693	1.289
食の安全などの知識	0.369	0.511	0.521	0.47	1.447
安心できる野菜の直売	-0.406	0.422	0.926	0.336	0.666
近所の親子が集まって食べる場	1.291	0.422	9.368	0.002**	3.636
定数	-2.803	0.454	38.17	0	0.061

(強制投入法)

モデルx2検定  $p \leq .010$  判別的中率 84.8%

\*\*\*  $p \leq .001$  \*\*  $p \leq .01$  \*  $p \leq .05$

③自由記述から、「作っても子どもが食べない」ことが、親と子の関係性を不安定なものとし、親が主体的に食生活や子育てに向き合うことを困難にしている。

④考察として、地域の親と子が集まって食べることにより、親同士の連帯感や情報共有や他の親子との相互作用による自己効力が育成されることが推察される。

⑤今後の地域のサポート課題として、地域の親子が相互に作用しあう場と支援力があげられ、今後の研究課題として、その実践と検証が求められる。

## (2) 外遊びについて

プール学院大学内において、「貝塚ネット」のスタッフを講師に招き「親と子の外遊び」を実施した(2009年6月～2011年3月)。

『親と子の外遊びプログラム集』(2009年5月、写真1)を作成し、本冊子に基づき外遊びを組み立てた(写真2)。



(写真1. 『親と子の外遊びプログラム集』表紙)



(写真2. 「ひらいた、ひらいた」(2010年10月))

参加者のアンケート調査(2010年5月～6月)から以下のことが明らかになった。

- ①親子一緒に外遊びのスキルを学ぶことにより、家庭に外遊びの楽しさ、面白さを持ち帰り、親子間の関係性を安定したものにす。
- ②参加している親子同士は、交流を深め、つながりのきっかけをつくるが、それ以上の仲間づくりには発展しない。
- ③以上の結果から、「地域の仲間づくり」を目的にするためには、「貝塚ネット」のように参加者が自らが企画や運営に参加するという役割や組織を作る必要が求められる。そのために、日常的な外遊びを設定することが課題だといえる。

(3) 「いのちのふれ合い授業」に関して

冊子『いのちのふれ合い授業』のちから』(2011年3月)とフォーラム開催(阿倍野区民大ホール、2011年8月20日、写真3)を通して、以下のことが成果と課題として明らかになった。



(写真3. 「いのちのふれ合い授業」フォーラム)

- ①虐待やいじめなど深刻な背景の下で、「いのち」という根源的価値を内包した生活課題を、子育て家庭や市民たちが自ら関わって解決したいという思いから「いのちのふれ合い授業」がつくられている。地域や家庭の内在的主体性が育ちやすい子育て支援プログラムである。
- ②小学校、中学校、高校という授業の場に、乳幼児の子育て家庭や妊産婦、子育て支援者である市民が関わることによって、それぞれの発達段階による生徒の学びがある。また、同じ地域に生活する異世代が結び合い、共生意識や社会連帯意識が育ちやすいプログラムである。
- ③子育て支援者の調査研究を通して、「いのちのふれ合い授業」は、自分自身の親子の関係のふり返りが起点となり、そこから、地域の共生や社会的連帯意識に発展していることが示された。
- ④それぞれの地域内での学校との連携の安定化や、他地域での実践へとつながる支援の方法を考えていくことが課題である。

(4) 「しつけ」を通して「親子の関係性」を育てる地域の役割

- ①「親子の主体性の育成」について研究していく中で、「親子の主体性」と「親子の関係性」は、密接不可分の関係にあることがわかった。これらについて、「島中宗一理論」(「関係性のなかの自立」)と「鯨岡峻理論」(「間主観性と相互主体性」)を参考に考察すると、「子育ては、『親子の関係性』が中核にあり、親子の相互の主体を認め合い調整を図ることによって、それぞれの自立を促し、主体的な子育てにつながる」に解釈される。また、「親子が相互の主体を認め合う」ことは、親子の「共にありたい」という意識を前提とすることであり、その調整を地域が

担うことを通して親子関係の安定化が図られる、という仮説の下に「しつけ」を取り上げた。

②行政とNPO法人が協働で実施した子育てひろばの利用者149名を対象にした調査(2012年4月～6月)の結果、自由記述の結果から「しつけがわからない」「しつけに自信がもてない」「怒らずにしつける方法を知りたい」など、9割前後の利用者がしつけに関心を持ち(図1)、地域にしつけを期待していることが理解できる(図2)。

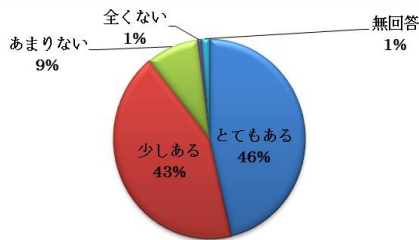


図1. しつけに関心がありますか。

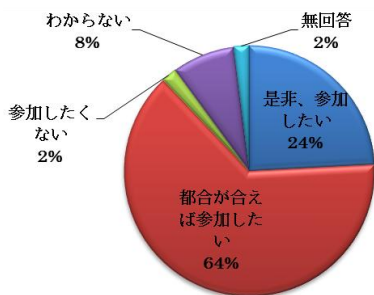


図2. 地域で、しつけの方法について学ぶ機会があったら、参加したいと思いますか。

- ④「しつけ」の定義を人が主体的に生きることを可能にするために、自立性と自律性の基盤の獲得を目的として、親と子がそれぞれ自己を振り返り、関係性を調整しながら、親子が一緒に取り組むことが大切である、とした。
- ⑤行動分析学を基盤とする「CSP」(コモンセンス・ペアレンティング)という親支援プログラムを活用して地域で「しつけ」に取り組み、その成果と課題については、次年度以降の課題である。

(5) 今後に向けた課題

親と子の主体性育成のためには、家庭内の親と子の関係性の安定が基盤となることが、本研究から明らかになった。そして、親の主

体性育成は、「親自身の自信と意欲に基づく親性の発達」と、「他者と共に分かち合いたい、寄り添いたいという共生意識や社会連帯意識の育成」が、バランスよく釣り合うことによって、より大きな主体性として発達すると考える。これらは、家庭内だけでは身につくことは難しく、親と子が地域の他の親子と相互に関係をつくること、地域の生活課題を親が他者と主体的に取り組むことによって、培うことができると考える。

今後の研究課題としては、本研究で得た知見を実践に生かし、「親と子の主体性」「親と子の関係性」「地域の役割」「共生意識・社会連帯意識」をキーワードとした研究を深めていきたいと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 寺田恭子「親子の主体性育成を目的とする子育て支援に関する一考察—『親と子の関係性』に着目して—」『プール学院大学研究紀要』第52号、査読無、2012、163-175
- ② 寺田恭子「『親と子の外遊び』実践における成果と課題—3年を経過した地域開放事業から—」『プール学院大学研究紀要』第50号、査読無、2010、215～228
- ③ 榎原志保「子育てネットワークと学校との連携による『いのちの授業』の意義—ふれ合う『いのち』の学びの世界—」、関西教育学会研究紀要第10号、査読有、2010、29-46

[学会発表] (計1件)

- ① 寺田恭子：地域における「食」を柱にした子育て支援の取り組みと課題—阿倍野区における1歳6か月健診時の子育て当事者調査結果分析を中心にして、(単)、第32回日本家政学会関西支部(兵庫県立大学) 2010,10,23

[図書] (計2件)

- ① 寺田恭子「『地域のつながり』と子育て支援—市民と行政による『食育』の協働」小林哲也他編著『異文化間協働』アカデミア出版会、327～342頁、2011年。
- ② 寺田恭子「福祉教育の形成史と現状課題」井村圭壯・相澤譲治編著『社会福祉形成史と現状課題』学文社、158頁～167頁、2009年。

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

(1) 報告書

- ① 寺田恭子『「しつけ」を通して「親と子の関係性」を育てる地域の役割』平成24年度科学研究費（基盤研究C）研究代表、2013
- ② 寺田恭子、榊原志保『いのちのふれ合い授業のちから』平成22年度科学研究費（基盤研究C）、2011
- ③ 寺田恭子『乳幼児期における食と子育て支援に関する研究』平成21年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究C）研究代表、2010
- ④ 寺田恭子「いのちの授業のこれから」『ふれ合ういのち～「いのちの授業」の力～』「西淀川区における世代を超えて子育てを応援するまちづくり事業」、45～59頁、2009。

(2) フォーラム

- ① 寺田恭子、榊原志保：フォーラム責任者「いのちのふれ合い授業」のちからーにしよどにコネット、いのちのわあべの取り組みからー：平成23年度文部科学省基盤研究C、阿倍野区民大ホール2011, 8, 20

(3) 講演

- ① 寺田恭子講演「親子の主体性を育む支援を考える～気になる親子の“気づいてサイン”からの学び～」高槻市子ども未来部（高槻市高槻市立子育て総合支援センター）、2012, 6, 26。
- ② 寺田恭子講演：「地域性を生かした『いのちの授業』～『共生意識』や『いのちの尊厳』を伝える福祉教育的側面からのアプローチ～」、「阿倍野区子育て支援講座」「阿倍野区保育ボランティア講座」共催、阿倍野区役所、2009, 12, 15
- ③ 寺田恭子講演：「食育を通して子育て支

援～阿倍野区食育プロジェクトの活動を中心に」大阪市公立保育所調理技能職員研修会、大阪市立中央会館、2009, 10, 27

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺田 恭子 (TERADA KYOKO )  
プール学院大学短期大学部幼児教育保育学科・准教授  
研究者番号：30360673

(2) 研究分担者

榊原 志保 (SAKAKIBARA SIHO )  
大阪成蹊短期大学 児童教育学科・教授  
研究者番号：90342170